

野辺地町烏帽子岳のシダ植物について(予報)¹⁾

豊田雅彦²⁾

A List of Pteridophyte in Mt. Eboshidake, Noheji-machi Town, Japan

Masahiko TOYODA

Key words : シダ植物, 烏帽子岳, 野辺地町, 青森県

1 はじめに

青森県立郷土館では、開館以来、自然分野の事業の柱として、青森県内各地域における自然調査研究事業を行ってきた。そのなかで、上北地方については2000～2004年に小川原湖周辺の調査を行った。しかしその調査域には山岳・丘陵地帯は含まれていなかったために、内陸部の植物についての知見は多くは得られなかった。

ところで、上北地方中西部に位置し、陸奥湾に面する野辺地町烏帽子岳周辺の植物関連の情報は少なく、特にシダ植物の報告は珍しい。そこで、本館では今年度から野辺地町烏帽子岳周辺に生育するシダ植物の生育調査を行うことにした。調査は、1回目は平成27年6月12日、2回目は平成27年10月16日に実施した。本報告はその結果報告である。

本文中の学名は「日本維管束植物目録 邑田仁監修・米倉浩司著、2012.」に従った。

なお、この調査は三八上北森林管理署より入林許可(許可番号: 27三上管大52号—43)を受けて実施した。また、資料の整理は齋藤信夫氏に協力していただいた。

資料整理に協力していただいた齋藤信夫氏及び三八上北森林管理署に謝意を申しあげる。

2 調査地及び調査方法について

烏帽子岳は、標高719.6mで青森県上北地区にある。この山は東津軽郡平内町・上北郡野辺地町・同郡東北町の町境上にあり、頂上から360度のパノラマが望める見晴らしの良い場所である。頂上付近はNHK青森放送局及び青森県内民放の上北中継局があり、岩場が多い。山頂からは野営場へ向けた登山道が伸びている。山頂から少し下るとブナ林となり、さらに下っていくとブナとヒバの混合林、さらに下るとヒバ林となる。今回の調査は登山道を山頂から野営場へ下りながら出現シダ植物をリストアップする方法をとった。

調査地域は、地点①: 岩場のある頂上付近、地点②: ブナ林地帯、地点③: ブナとヒバの混成林地帯、地点④: ヒバ林地帯、地点⑤: 野営場から父恋し夜鳴き石とした。

(図1).



図1 調査地点略図

1) 青森県立郷土館上北地方自然調査報告

2) 青森県立郷土館主任研究主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目8番14号)



図2 烏帽子岳頂上から



図3 烏帽子岳頂上



図4 頂上岩場のオサシダ



図5 ブナ林



図6 ブナとヒバの混成林



図7 ヒバ林

3 調査地点ごとのシダ植物の状況

調査地点①

調査地点①は標高719.6mの烏帽子岳頂上付近で、高木はなく岩場の多い場所である。ガスがかかることも多く風も強い場所である。亜高山的な様相で岩場地帯にはコケモモが見られる。生育する植物には、同種であっても他の地点よりも小型の個体が多いという特徴がある。

LYCOPODIACEAE ヒカゲノカズラ科

- 1 *Lycopodium clavatum* L. ヒカゲノカズラ

BLECHNACEAE シシガシラ科

- 2 *Blechnum amabile* Makino オサシダ

DRYOPTERIDACEAE オシダ科

- 3 *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi
シノブカグマ

- 4 *Dryopteris sabae* (Franch. et Sav.) C. Chr.
ミヤマイトチシダ

調査地点②

ブナ林地帯で標高は400m～700m。腐葉土のおかげであろう、林床にはチシマザサ・オオバクロモジ・チゴユリなどのほか多種・多様な植生が広がっている。ここでも地点③・地点④に比べると同種であってもやや小型の個体が多い。

OSMUNDACEAE ゼンマイ科

- 1 *Osmunda japonica* Thunb. ゼンマイ

PLAGIOGYRIACEAE キジノオシダ科

- 2 *Plagiogyria matsumurana* Makino ヤマソテツ

THELYPTERIDACEAE ヒメシダ科

- 3 *Thelypteris japonica* (Baker) Ching ハリガネワラビ

WOODSIACEAE イワデンタ科

- 4 *Athyrium clivicola* Tagawa カラクサイヌワラビ
5 *Athyrium yokoscense* (Franch. et Sav.) H. Christ
ヘビノネゴザ

BLECHNACEAE シシガシラ科

- 6 *Blechnum niponicum* (Kunze) Makino シシガシラ

DRYOPTERIDACEAE オシダ科

- 7 *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi シノブカグマ
8 *Arachniodes standishii* (T. Moore) Ohwi リョウメンシダ

- 9 *Dryopteris expansa* (C. Presl) Fraser-Jenk et Jermy
シラネワラビ

- 10 *Dryopteris sabae* (Franch. et Sav.) C. Chr.
ミヤマイトチシダ

- 11 *Leptorumohra miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.)
H. Itô ホソバナライシダ

調査地点③

ブナとヒバの混成林。標高は350m～400mほど。ブナ林地帯と比べると植物の種類がやや少なめになってくる。シダ類は大きめの個体が多くなる。

OSMUNDACEAE ゼンマイ科

- 1 *Osmunda japonica* Thunb. ゼンマイ

PLAGIOGYRIACEAE キジノオシダ科

- 2 *Plagiogyria matsumurana* Makino ヤマソテツ

THELYPTERIDACEAE ヒメシダ科

- 3 *Thelypteris japonica* (Baker) Ching ハリガネワラビ

DRYOPTERIDACEAE オシダ科

- 4 *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi
シノブカグマ
5 *Dryopteris crassirhizoma* Nakai オシダ
6 *Dryopteris sabae* (Franch. et Sav.) C. Chr.
ミヤマイトチシダ
7 *Leptorumohra miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.)
H. Itô ホソバナライシダ

調査地点④

ヒバ林地帯は標高350m～400m。地点①～地点③では林床全体に植物が生育していたが、ここではかなり少ない。落ち葉が少なくシダ類が林床を占有している。また大型の個体が多かった。地点⑤に近い場所では枇杷野川が流れていて、植生が豊かになってくる。

PLAGIOGYRIACEAE キジノオシダ科

- 1 *Plagiogyria matsumurana* Makino ヤマソテツ

THELYPTERIDACEAE ヒメシダ科

- 2 *Tegnogramma pozoi* (Lag.) K. Iwats. subsp. *mollissima*
(Fisch. ex Kunze) K. Iwats ミヅシダ

WOODSIACEAE イワデンタ科

- 3 *Athyrium yokoscense* (Franch. et Sav.) H. Christ
ヘビノネゴザ
4 *Deparia pycnosora* (H. Christ) M. Kato ミヤマシケシダ

ONOCLEACEAE コウヤワラビ科

- 5 *Pentarhizidium orientale* (Hook.) Hayata
イヌガンソク

DRYOPTERIDACEAE オシダ科

- 6 *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi
シノブカグマ
- 7 *Arachniodes standishii* (T.Moore) Ohwi
リョウメンシダ
- 8 *Dryopteris sabae* (Franch. et Sav.) C.Chr.
ミヤマイタチシダ
- 9 *Leptorumohra miqueliana* (Maxim. ex Franch. et Sav.)
H.Itô ホソバナライシダ

調査地点⑤

野営場から父恋し夜鳴き石まで。標高は250m～350m。調査地域のなかでは最も人が多く入る場所であり、ブナなどの他広葉樹が広がる。調査地点のそばを枇杷野川が流れており植物相は豊かである。

DENNSTAEDTIACEAE コバノイシカグマ科

- 1 *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn subsp. *japonicum* (Nakai) Á.
et D.Löve ワラビ

PTERIDACEAE イノモトソウ科

- 2 *Adiantum pedatum* L. クジャクシダ

THELYPTERIDACEAE ヒメシダ科

- 3 *Tegnogamma pozoi* (Lag.) K.Iwats. subsp. *mollissima*
(Fisch. ex Kunze) K.Iwats ミヅシダ

4 おわりに

今回の調査では、6月・10月ともに調査地点①の頂上から調査を開始し、調査地点⑤まで山を下りながらの調査となった。地点④及び地点⑤では、地点①～③で出現したシダと同種のシダを見落としたものもあるようで、種類が少なくなってしまった。また、筆者自身初めてのシダ植物に関する調査だったため、見落としたものも数多くあると思われる。そのため次年度も調査を継続していきたい。

参考文献

邑田仁監修・米倉浩司著, 2012. 日本維管束植物目録.
pp. 379. 北隆館.

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名-学名
インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2016.1.15
アクセス確認)